



「小説を通じて認知症を考える」～度会町居宅介護支援事業所～

今回は、認知症の方と介護をする家族の葛藤を描いた本を紹介します。

作品は、「老乱」久坂部羊著（朝日新聞社）実際に新聞に掲載された、認知症の関係記事を織り交ぜながら進む物語で、主人公は70代の一人暮らしの老人。妻が亡くなってから、老いや衰えを感じながら、離れて暮らす長男や嫁、長女になるべく迷惑をかけたくないという一心で日々を送っている。しかし、老いは少しずつ老人の記憶をむしばんでいく。時おり様子を見て来ていた息子たちも父親の変化に気づき、「車で事故をしたら、家が火事になったら、社会に迷惑をかけるのではないか」「自分た

ちの責任になるのではないか」と不安に駆られて車の運転をやめさせ、病院にかけり父親の自由を奪おうとする。「これをしてはだめだ」と言われ続けたことで自分は役に立たないだめな人間だ、家族に迷惑をかけていると次第につらいことや不安なことを誰にも言えず、周りに理解されることがなく、病状は進んでいく。

その後、介護保険を使うようになり、ケアマネ、施設の入所、弱りゆく父親の姿と、精神科医との出会いを経て家族が介護していく姿が描かれていきます。

作品の中で、精神科医が『認知症の介護の一番の問題は』と切り出し『介護がうまくいかない最大の原因

は、ご家族が認知症を治したい。と思うことです』と続けます。家族は病気である認知症を治したいと思うため、薬を飲ませたり、認知症に効く体操を教えたりします。精神科医は、その治したいという強い気持ちは認知症を否定し、拒否する気持ちにつながってしまう。それは当人にとっては、自分自身を否定され拒絶されているように受け取ってしまうことがあると語られます。それを聞いた長男夫婦は自分たちの介護は間違っていたのではないかと父につらい思いをさせたのではないかと、思い、自宅での介護を始め物語は終わります。

この物語は、認知症の方

の揺れる気持ちだけではなく、日々起こる父親の変化をどう受け止めていけばいいのかという家族の悩みも書かれています。専門職として、利用者様の声に耳を傾け、思いを聞き取ることの重要性和、家族が介護をする上での葛藤や悩みも同じように聞きながら支援ができるようになりたいと考えさせられる本との出会いとなりました。



「生活を支える福祉用具を知ろう」

～介護教室に9人が参加～

10月27日に中央公民館で介護教室が開催され、9名の方が参加しました。

介護教室は、介護者のみなさんが介護に関する知識や技術の勉強会を行ったり、介護者同士の交流を図ることを目的として開催しています。

今回は福祉用具を取り扱う（有）ケアフィットの方を講師に招き、『生活を支える福祉用具を知ろう』という内容でした。

まず初めに、介護保険や用具のレンタルについてスクリーンで説明していただきました。

次におむつフィッター（おむつのアドバイザー）のビデオにより、どのようにあてたら漏れにくいのか、どのようなサイズが最適かなど、同じおむつでも何通り

かの使い方を学びました。

最後に実際に福祉用具を見て頂き、車いすや歩行器、電動ベッドの体験をして頂きました。参加者の方は「こんなにたくさん機能がある車いす初めて見た」「今ではオシャレな介護用品もあるんやな」など話されていました。

今後も介護する側される側がお互いの心身の負担が軽くなる様な介護について学んで頂ける場となればと思います。



歳末たすけあい運動

☆ おせち料理のお届け ☆

町内の75歳以上のお一人暮らしの方を対象に、共同募金歳末たすけあい募金を利用して実施します。

12月28日(月)に配達させていただきます。

※民生児童委員会が希望の確認にお伺いします。



車いすの説明を受ける参加者



レンタルの話を聞く参加者



福祉体験教室

～度会小学校6年生66名が参加～



10月8日に小学6年生を対象に度会小学校で福祉体験教室を行いました。今年度は、『耳が聞こえないこととはどういうことか』と『聞こえない人とのコミュニケーション方法』について、三重県聴覚者障害者協会の深川誠子さんにお話ししていただきました。

初めに、実際に耳が聞こえないことにより、生活の中で困ることや支援してほしいことを教えていただきました。

次にどのようにコミュニケーションをとっていったら良いのかを、実際に手話や身振り、空書き、口話を皆で行いながら学びました。

空書きは、空中に文字を書き、それを読みとり、会話をします。口話は、口の動きで何を話しているのかを伝えます。「おはよう」「大丈夫」「ありがとう」などの手話も、練習し覚え

ました。

手話や空書きを体験することは、初めてだったという児童もたくさんみえましたが、「先生に丁寧に教えてもらって覚えることができた」「先生の表現力が素晴らしく、手話だけでは分かりづらいところも身振りなどで理解することができた」との感想をいただきました。



講師の先生の話
を聞く児童



空書きをする児童

<その他の感想>

- 耳が聞こえない人と話す方法は、手話しかないと思っていたので、様々な方法があると知ることができてよかった。
- 耳が聞こえない人に会ったら自分のできる範囲の手話などで話したい。
- 耳が聞こえないと生活に不自由が出て、思いどおりに生活できないと大変だと思った。でもそれに対応する便利な用具があることを知り、考えた人はすごいなと思った。

絵手紙作りでリフレッシュ



～度会町介護者の会～

10月14日に度会町介護者の会リフレッシュ事業で講師に村井朋子さんをお招きし会員9名と『絵手紙作り』を行いました。

栗やさつまいも、柿やどんぐりなど季節を感じられるものを題材にじっくりと観察しながらはぎに絵を書きました。

まず墨で輪郭を描くのですが、今回は筆を使わず割りばしを使いました。輪郭を描いた後、顔彩で色を塗ります。皆さん送る相手を想像し、思い思いの言葉を手紙に込めてみえました。

参加者の方は「綺麗にかけへんわ」「下手くそやわ」

「綺麗な色がでやん」と話されていると先生は「下手でいいですよ。すごく味があって素敵です。絵手紙をお友達やご家族に是非出してくださいね」とにこやかに話され、完成した絵手紙に皆さん満足な様子で介護の合間のほっとしたひとときとなりました。



絵手紙を描く参加者



珍しいお花を頂きました



皆さんこのお花が何の花かご存じですか？さつまいもの花です。珍しい花を頂いたのでデイサービスで飾らせて頂きました。

利用者の方からも「これは珍しい！初めて見たわ」「綺麗やなあ」「朝顔みたいな花やな」と皆さん大変喜ばれていました。



れんげ草剪定作業

～つくしの会みなさんありがとう～

10月2日（金）ボランティアグループつくしの会の方々によりれんげ草グラウンドの草木の剪定作業をして頂きました。毎年お世話になっており、今年も早朝より作業をして頂きました。れんげ草にはキュウイフルーツやブドウが植えてありますが、棚が傷み傾きせっかくの果実が収穫でき

ない状態になっていました。今回はボランティアの方々に棚を直してもらい新しい苗木も植えて頂きました。見違えるグラウンドや果物棚を眺め、「庭が明るくなった、気持ちが良い、きれいにしてもらってありがたい」と利用者・職員感謝しています。



- 1日 民生委員、福祉推進員合同会議（内城田地区以外）
- 3日 町老連単位クラブ会長会議
- 4日 民生委員、福祉推進員合同会議（内城田地区）
- 食事サービス
- 6日 度会町ボランティア連合会缶拾い
- 8日 食事サービス

- 11日 食事サービス
- 15日 食事サービス
- 17日 民生児童委員定例会
- 18日 食事サービス
- 22日 食事サービス
- 24日 忘年会（老人デイサービス）
- 25日 忘年会（老人デイサービス）
- 食事サービス
- 28日 おせち料理配達

